

<別紙1>

第三者評価結果報告書

① 第三者評価機関名

株式会社フィールズ

② 施設・事業所情報

名称：ナーサリー横浜ポートサイド	種別：認可保育所
代表者氏名：園長：山口正子	定員（利用人数）：90名 （利用人数：92名）
所在地：〒221-0055 横浜市神奈川区大野町1-25 ポートサイドプレイス3F	
TEL：045-548-3718	ホームページ： http://www3.plala.or.jp/ntsuduki/yokohama.html
【施設・事業所の概要】	
開設年月日： 2001年4月1日	
経営法人・設置主体（法人名等）：社会福祉法人和泉福祉会	
職員数	常勤職員： 22名 非常勤職員： 6名
専門職員	園長 1名 主任 1名
	保育士 21名 看護師 1名
	栄養士 3名 調理師 1名
施設・設備の概要	保育室 6室 トイレ 3ヶ所
	調理室 1ヶ所 事務室 1室
	相談室 1 職員休憩室 1
	職員更衣室 1室 調乳室 1室
	エントランスホール 1 ホール 1
	園庭 有

③ 理念・基本方針

園目標『しなやかに こころゆたかに すこやかに』

<ナーサリー横浜ポートサイドの子どもの姿>

- ・集団生活を通して何事にも負けないしなやかな心をもって育つ
- ・異なるいろいろな年齢の子どもたちの交流からこころゆたかに育つ
- ・ひとりひとりの発達や成長をふまえた安心して過ごせる環境で、すこやかに育つ

【保育理念】

- ・子どもの生活の場であることを基本とし、保育の質の向上と保育環境の向上に努力します
- ・子どもたちが生きる力を高め、豊かな個性を育むことのできる保育に努めます
- ・地域との関わりを大切に、子育て支援や地域交流の場になるよう努力します

④ 施設・事業所の特徴的な取組

- ・立地： 横浜駅より徒歩7分程という駅から近い場所にありますが、周囲は公園、マンション等が多く静かな環境です。園は29階建てマンションの3階フロアにあり、デッキでつながれた隣のビルには嘱託医のクリニックがあります。いざという時、毎

月の健診や地域の感染症情報についての相談等で頼りになる存在です。

・ 戸外遊び・散歩： 1階に下りるとポートサイド公園に隣接しているため、敷地から直接公園に行く事ができます。ポートサイド公園は、場所によって斜面や広場、草や木、季節の花等様々な環境で遊ぶ事ができ、目の前をシーバスや貨物列車が通り過ぎると、「おーい！」と手を振るのを、子どもたちは楽しみにしています。他にも、神奈川公園や水際線公園、高島中央公園等たくさんの公園に戸外遊びにでかけています。

園内テラスには人工芝が敷かれた園庭があり、ハイハイをしている乳児もダイナミックに遊ぶ幼児も、階下まで下りずとも外気にあたって戸外遊びをすることが出来ます。この園庭では、夏には組み立て式のプールを設置し、たらいやミストシャワー等も使って、年齢に応じた水遊びをのびのびと楽しんでいます。

・ 様々な経験を大切に： 幼児クラスでは、製作、ワークブック、折り紙等“座ってじっくり取り組む”活動も大切にし、就学を視野に入れ活動に集中することを練習していきます。他に体操教室、英語教室、歌、楽器遊び、ダンス等様々な活動を経験する中で「自分の好きなこと、得意なこと」をみつけていきます。

・ 食育活動： 幼児クラスでは美味しく、楽しく食べるために、年間プログラムを組んで食育活動を行なっています。クッキングはもちろん、ピーマン、ナス、トマト、きゅうり等の苗を植える、世話をする、観察（画）、収穫、試食を経験。また、食べ方（マナー、箸の持ち方）、材料を知る（稲から白米まで、きなこ、寒天）、ジュースに含まれる糖分等についても、子どもにわかりやすいように工夫して知らせています。

⑤第三者評価の受審状況

評価実施期間	令和4年10月7日（契約日） ～ 令和5年4月19日（評価結果確定日）
受審回数（前回の受審時期）	2回（2017年度）

⑥総評

◇ 特長や今後期待される点

1) 子どもとの愛着形成を大切にし、自主性を育む保育を行っています

子どもの気持ちを受け止め、一人ひとりの子どもの成長に合わせた保育を進めています。言葉や気持ちを表現することが苦手な子には仕草や行動などから気持ちを探り、保育士が共感することで子ども自ら意思表示できるように支援しています。乳児期は、愛着形成の大事な時期であるため惜しまず抱っこをしたり、個々の手作り玩具を提供しています。子どもの甘えを十分に受け止めスキンシップを図ることを大切にしています。幼児は、絵画作成時に皆の前で発表する機会を作り、自分の気持ちや考えを言葉にして表せるようになっていきます。自主性、自律性を尊重し、子ども同士で話し合う機会を多く設け、自己主張を大切にしながらも自分とは違う意見や考えがあることも知り、互いにぶつかりながら、成長できるように導いています。

2) 安全でおいしく楽しい食事提供に取り組んでいます

栄養士は、子どもたちが喫食している様子を観察し、子どもが好むメニューや苦手なメニューを把握しています。食材をより食べやすく、おいしくなるよう調理法を検討し、日々改善しています。食材の栄養について伝え、盛り付けを工夫し、食に関心が持てるように努めています。食材はできる限り無添加、国産にこだわり、調理しています。おやつも手作りし、月1回の誕生会にはアンパンマンのクッキーやケーキを提

供するなど食を楽しむ工夫をしています。

3)職員個々の資質向上とともに、保育の質の向上に取り組んでいます

「求められる職員像」には、職務・職階ごとに業務の組織性と専門性に関して達成レベルが具体的に記載されています。これをもとにして、各職員は「コミットメントシート」に自分の目標を立て、前期、後期に進捗状況を確認して自己評価を行い、園長との面談で評価しています。職員一人ひとりの目標が明確にされ、職員の資質向上に手ごたえを感じています。職員は日々の保育を話し合い、見直し、改善に取り組んでいます。10項目ある「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」をバランスよく保育内容に反映させるよう指導計画を工夫し、組織的に保育の質の向上に取り組んでいます。

4)ホームページを活用し、保育内容を伝える工夫を期待されます

ホームページを今以上に活用して、保育内容を伝えるページを作るなど、保育内容をわかりやすく伝えていく工夫が期待されます。現在のホームページからは、園の基本情報や環境を知ることはできますが、保育の様子を具体的に知ることはできません。保育内容を適切に公開し、園が目指している保育の特徴やアピール点を具体的に、広く社会に伝える取組が期待されます。

5)園としての自己評価をまとめ、公表していくことが望めます

保育士の自己評価活動として、一人ひとりが自己目標を立て、園長面談を通して評価を積み重ねていく取組をしています。また日々の保育は、年間指導計画を前期と後期に振り返り、園としての総括をしています。保育士の自己評価の取組も、園としての保育の振り返りも行っており、今後はこれを一定の評価基準をもとにして、園としての保育実践の自己評価としてまとめ、公表していくことが望めます。

⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

第三者評価を受審させていただくことは、今回3回目となります。

今回も日々の保育を振り返る大変貴重な機会となりました。職員一人ひとりが深く考えたり、仲間同士で意見を出し合ったり、多種多様な考えから、私たちの保育を一つに結びつける大きなプロジェクトだったと思います。

その中で、私たちが今まで続けてきた、責任をもって保育をすることの再確認が出来、保育園としての重役もみんなが助け合いながら努めていこうと、意志統一を図る事ができました。

保護者の方々には、お忙しい中アンケートにご協力いただきありがとうございました。今までに考えたことも無かったコロナ禍での保育は、日々の保育、行事の縮小等毎日が葛藤の連続でしたが、皆様のご協力のもと子どもたちは安心して通うことができたのではないかと思います。そんな中、保護者アンケートで寄せられた温かいご意見に勇気づけられました。また、気づかされたこともあり、これからの課題が見えてきました。

これらのご意見を真摯に受け止め、より質の高い保育教育を提供し続ける保育施設であるよう、職員一同努力してまいります。

園長 山口正子

⑧第三者評価結果

別紙2のとおり